

アクションプラン項目		参考		
環境づくり	団体の交流を行い、互いに認め合い、高め合おう。	問4 貴団体が活動を行うにあたり、平成25年度から現在までの10年間、交流や連携を行ったことがある対象について、あてはまるもの全てに○を付けてください。 他の団体との交流・連携：83.3%実施		
	文化芸術に関するイベント、団体の活動などの情報を収集し、提供しよう。	—		
	文化芸術活動同士の意見交流の場を設け、団体間のネットワークをつくらう。	問4 貴団体が活動を行うにあたり、平成25年度から現在までの10年間、交流や連携を行ったことがある対象について、あてはまるもの全てに○を付けてください。 他の団体との交流・連携：83.3%実施		
古賀市の個性をおこす	宝をみつける	新たな文化芸術活動の取組に挑戦しよう。 —		
	宝をいかす	文化、歴史、風景など古賀市の環境をいかした文化芸術活動を行おう。	問5-1 貴団体が活動を行うにあたり、この10年間、古賀市の文化・歴史・風景など、古賀市の環境を生かした活動をしたことがありますか。 ない：22.2% 年1回：44.4% 年2～5回：22.2% 年6回以上：22.2% できたこと 【参考資料】団体アンケート自由筆記項目詳細3～4頁参照 できなかったこと	
		地域の公民館や身近な施設を活用するとともに、古民家等の利用可能な場所を開拓し、文化芸術活動の場として活用しよう。	問6-1 活動や文化体験などを行うにあたり、この10年間、公民館や古民家など地域の利用可能な場所を活用したことはありましたか。 ない：11.1% 年1回：5.6% 年2～5回：38.9% 年6回以上：33.3% 回答なし：11.1% できたこと 【参考資料】団体アンケート自由筆記項目詳細5頁参照 できなかったこと	
		文化芸術を身近に感じられる体験講座など、地域に出向いた活動を提供しよう。	問7-1 活動発表や文化体験など、この10年間、地域に出向いた活動を行ったことはありますか。 ない：11.1% 年1回：11.1% 年2～5回：44.4% 年6回以上：22.2% 回答なし：11.1% できたこと 【参考資料】団体アンケート自由筆記項目詳細6～7頁参照 できなかったこと	
	宝を伝える	屋外での活動や広報の方法など、「見える」文化芸術活動を取り入れよう。	問8-1 屋外における広報活動や発表など、普段の活動をご存じない方が観ることができるような活動を、この10年間、行ったことはありますか。 ない：5.6% 年1回：16.7% 年2～5回：38.9% 年6回以上：22.2% 回答なし：16.7% できたこと 【参考資料】団体アンケート自由筆記項目詳細8～9頁参照 できなかったこと ・ラインや会報を通じ、または電話を利用し、コミュニケーションをこころがける。 ・デジタル技術活用により、古賀市の歴史が、いつでも、どこでも、だれでも目に見えるようにしたいのですが、高齢者グループのため、デジタルに弱い…克服したい。	
		活動を次世代に引き継ごう。	できたこと できなかったこと ・最大の課題は、加盟団体の高齢化に加え、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止等により団体活動が低下したことにより、会員減少が顕著になってきている。 ・人（団員、お客様）集め／資金集め ・劇団DAICOONは活動休止の選択をしました。資金面での苦労が一番の理由です。古賀市を盛り上げるために！と結成した団体でしたが、これ以上活動を続けていくと、個人の負担がかなり大きくなると予想されました。正直、文化活動を行う環境は、特に変わってないように感じます。 ・団員の不足は創設以来の課題です。特に古賀市在住の団員がきわめて少なく、これが2桁そして望むなら過半数になれば名実とも古賀市のオーケストラとして認めていただけるのではないのでしょうか。 ・もっとPRをして、仲間を増やし、ダンスの楽しさを伝えたいです。 ・音楽活動は飛沫による感染の危険があるので、新入部員を募集できず困っている。終息したら体験等を通じて活動を行いたい。 ・会員の減少、高齢化 ・新会員増加に向けての手法の模索。地域の歴史を次世代の子どもたちへのつなぎかたの方法 ・中心で働く担い手が不足。資金の問題（コロナ禍にあり、協賛金が不足すると考えられる）	
	古賀市の新しい魅力を興す	人にやさしいまちづくり	自治会での文化芸術事業の取組などの情報を共有し、地域での文化芸術の活性化を図ろう。	問4 貴団体が活動を行うにあたり、平成25年度から現在までの10年間、交流や連携を行ったことがある対象について、あてはまるもの全てに○を付けてください。 自治会・育成会・老人会との交流・連携：55.6%実施 できたこと できなかったこと ・行政、自治会の理解が得られており、安心して活動できる。 ・早く対面活動ができることを願います。その内であっても、自治会をとおして各家庭への配布物にぬり絵とかなぞなど、クイズなど（出版社の著作権の確認をとる）入れてもらう、人と人とのコミュニケーションのために必要なものを考えていくこと。 ・対面会話、赤ちゃんにはふれあいあそび（わらべうたあそび）を早く実施せねばならないと考えています。（子どもはまってくれないーもちろんな大人（お母さんたち）は心のよりどころを必要としている）地域公民館での活動が必要と考えています。国語辞書を引くことを子どもたちと大人がたのしむこと。
			団体が行う活動に、障がい者との交流や世代間交流や国際交流などを取り入れよう。	問4 貴団体が活動を行うにあたり、平成25年度から現在までの10年間、交流や連携を行ったことがある対象について、あてはまるもの全てに○を付けてください。 障がい者・障がい者団体との交流・連携：27.8%実施 外国人との交流・連携：0%実施
		ざわめきづくり	異なるジャンルの団体との交流を深め、活動内容やエリアを広げ、新たな団体の魅力をつくりだそう。	他の団体との交流・連携：83.3%実施 企業との交流・連携：22.2%実施

アクションプラン「団体がおこす」項目以外の意見

	できたこと	できなかったこと
施設について	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食のできる場所が増えた。 ・リーパスプラザこがが完成したことで活動の拠点はできている。ホールも照明音響とも改修が行われ整備されている。特に現スタッフになってホールの使い心地はとても良い。専門的な相談もしっかり受けてもらえる。” ・交流館が建て替わり、活動の環境が大変によくなりました。感謝しています。 ・リーパスプラザができたことで、人が集まりやすくなった。 ・リーパスプラザこが中央公民館や交流館、サンコスモ古賀を使用することが多いのですが、職員の皆さんの対応がとても良いです。使用者の立場に立って考えていただき助かっています。 ・リーパスプラザ内でクラブの活動のほとんどを行うことができます。特に不便はありません。 ・毎月交流館で例会をしていますが、場所が便利で良いです。 ・つながり広場の存在（横とのつながり、相談にのってくださる） 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流館施設使用料（ホール等含む）を減額してほしい。（減免など）利用しやすい料金。施設使用時間を30分単位にしてほしい。使用（利用）する側に立って決めてほしい。施設使用の場合カギ渡しは使用10分前にしてもらいたい。5分前は直近過ぎる。（階段を登るのに数分はかかるため） ・減免がなくなったことで経済的には大変になっている。子どもたちが多い使用については福岡市のように名簿を出してもいいので減免を考えていただけませんか。 ・施設利用についても市内外の利用料金に格差があっても良いのでは、市民優先をもう少し出していただければと思う。 ・照明スポットetcの整った小ホール、中ホールがない。多目的ホールetcの使用料が高く、参加者から参加費を徴収しない活動なので負担が大きい。 ・リーパスプラザの予約は取りにくい。 ・少人数で活動する場所数、部屋数が少ない。 ・施設、設備の環境に不便を感じます。リーパスプラザ大ホール（800人）は、市民が演劇の公演を行うには広すぎるように思います。小ホール（200人～300人）があると、活動しやすくなります。多目的ホール（300人）がありますが、演劇を行うには設備が整っていないように思います。 ・交流館施設使用料が高いのではないかと。活動は営利目的ではなく自前で行っている。（自己負担）特にコロナ禍のため使用条件が厳しい。交流館以外で会議等を開催している。 ・前の方がスタジオ（部屋）の時間を守ってない時が時々あるので守ってほしい。文化協会会員には部屋の料金を少し下げてほしい。 ・福岡市の地区公民館で指導を行っているが、使用料は無いので利用しやすい。 ・練習会場の環境が悪い。（冷暖房設備がない、真夏は窓を開けると網戸が無く虫が入ってくる。）学校内施設を提供いただいているので利用料は発生しないが、学校内の行事等で連携が必要。 ・市内の史跡巡り等案内する場合、公共交通機関の便が悪く、車移動となり高齢者の方の移動に不便を感じる。（現地までの参加者マイカー必要） ・屋外での体験活動で火おこしや焚火をしているが、もっと火や水を自由に使える場（届け出を出せば）、キャンプ場のような場が、子どもたちが歩いていける校区ごとにほしい。
コロナ禍関連について	<p>【参考資料】団体アンケート自由筆記項目詳細 10～11頁参照</p>	<p>【参考資料】団体アンケート自由筆記項目詳細 12～13頁参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちの団体は「3密集団」（※比喩的な意味です）であると感じています。人と接触し、直接集まって話す、つながりは大事にする団体です。舞台も生であることに意義があります。リモート、映像では替えることができない活動ですが、このまま映像、オンラインに慣れていまい、生の舞台へ足を運ぶことに何らかの感染へのリスクがともなうと考える人が増えることを危惧しています。また児童演劇のづくり手、創造団体がコロナ禍で受けた経済的打撃は大きく存続が危ういところもあります。創りつづけること、継続すること、舞台に立つことなど舞台芸術への理解が薄いと考えます。よりいっそう私たちのアピールが必要だと思っています。直接人と関わって、子どもたちは社会的に成長します。これからも人と人とのつながりを大切にして活動していきたいと考えています。 ・子ども食堂的な活動も実施していたが全くできなくなり、専ら屋外での活動が中心となったが、子どもたちはよく遊んでいる。スタッフの中には教員、公務員、介護施設職員もおり、非常に気を付けながら実施している。 ・コロナ禍の活動規制状況を除けば問題はないと考えている。 ・コロナ禍で緊急事態宣言下では、それ以前に予約していても制限がかかって困りました。またホールの定員半減は非常に困る場合があります。舞台鑑賞は大声も出しませんし、マスク着用していますので、人数制限を緩めていただくと助かります。2公演すると経済的負担が大きいので。
一般市民の文化活動への関心について		<ul style="list-style-type: none"> ・全体として、文化芸術への理解が高いようには思えません。どのように理解を求めていけば良いのか、劇団としての役割は何なのか、悩むところです。 ・リーパスプラザの建設や「つながりひろば」によるコーディネート活動など文化芸術振興計画のもとで着々と進められているように見えます。ただし文化芸術への理解や意欲は一朝一夕に高まるものではありません。当オーケストラも地域の文化向上に資することをその目的に挙げていますが、残念ながら市外からの団員が圧倒的に多いことは、そのことを象徴しているように思います。 ・昨年コロナウイルスで活動の自粛をしていますが、それ以前でもリーパスプラザこがができた後も、気軽に館内に立ち寄り、芸術や文化に触れる機会が無いように感じています。 ・全体的に、特に文化活動は個人の趣味と考える方が多く、生涯学習・社会教育活動という市民の方々の認識が、少し弱い気がする。 ・文化活動をする若者が少ない。（年寄りと子どもばかり）古賀市民の文化活動に対する意識が低い。
子どもたちへの文化施策について	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の会場では行政、教育委員会、他団体との共催が進んでいる。また美術館と行政、教育委員会とのつながり（学びや体験）が存在する。全国で開催されているMOA美術館児童作品展の、児童の情操教育、心の健康、生きる力を育むという学校指導要綱のサポート、日本文化の発信など、文部科学省、厚生労働省、外務省の中でも位置づけのある児童作品展であることをしっかり伝え、共催を進めること。 ・長期的な視点に立って眺めるならば、幼少期からの教育が必要であり、小中学校への音楽活動の啓蒙をまず第一に考えていただきたい。合唱や楽器演奏を聴く機会そして自ら体験する機会をできるだけ多く持たせること。そのためには良い演奏家や指導者を準備することが必要です。それなりの予算措置もなければ実現できません。そしてできるならば対象に「クラシック音楽」も加えていただければ当オケの将来はバラ色?? ・古賀キッズプラスは小学生バンドなので、古賀市内の中学校や高校生と一緒に活動できる演奏会等を企画してほしい。 ・子供たちの芸術文化の祭典のような催しを行いたい。 ・朗読や演劇、音楽と踊り全てで創りあげる作品等の発表の場が欲しい。子どもがワクワクできる、そんな古賀市であってほしいと考えています。 ・古賀市の高学年から中学生が年に数回必ず生の舞台の接する機会（年1回や2回ではなく）をつくっていただきたい。子どもたちがホールに客として迎え入れられる体験も必要。大人に大切にしてもらったという記憶につながり、自己肯定感があがることにもつながると思えます。文化の担い手、良き鑑賞者となる子どもたち、幼い時から自然に親しみ、外遊びを充分に行うことの文化の活性化につながると思えます。メディアリテラシーを！（SNSなど子どもたちのメディア環境は悪化しています。乳幼児期のメディア啓蒙を古賀市は実施されて、すばらしいと思います。） 	
その他の市の施策について	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい宝を見つけることは、とても大切だと思いますが、それと同時に既存の宝、すでに頑張っている活動者や団体が活動を続けていける様しっかり支えていただけたらと思います。 ・活動団体を企業等とマッチングし、双方が活動や運営の幅を広げられるような仕組みづくりをお願いしたいです。 ・古賀市内に若者は沢山いるが、若者の活動が根付いていない。抜本的方法を市が中心となってやってほしい。例) ①古賀市の職員を強制的に文化系体育系サークルへ投入する。（仕事として頑張っているが、私生活での貢献度を疑問視する）②子育てしながら活動できる市民の体質を変える。（補助金を出して参加体制を作るなど）③補助金制度が未熟で多様化されていない。また活動にも魅力ある活動団体を作してほしい。（そちらへの資金を投入して育成を望む） ・高齢者の自動車運転免許証自主返納が活動の障害になりつつあります。 ・文化活動を育てる専門家が少ない。 ・行政との連携 	